

教育長だより No. 8

2023年6月21日

ぼくが作ったチャーハン

～ 校外学習で、生活が見えた「瞬間」～

先日(6/6)、びわ湖ホールに行ってきました。滋賀県独自の『ホールの子』事業で、県内の小学生が招待され、「本物の音楽」に出会います。ステージいっぱいには並んだフルオーケストラの京都市交響楽団の大迫力に、子どもたちは圧倒されていました。でも、運動会でよく耳にする『天国と地獄』が演奏されると、どこからか手拍子が、そして、それはどんどん大きくなり、子どもたちは身体をゆすっての大盛り上がり。さらに、このオーケストラの伴奏での全員合唱『翼をください』では、ホールいっぱいに子どもたちの声が響き渡りました。ちょうどその日は、本市の祇王小学校も来ていて、私もノリノリの彼ら彼女らを見ることができました。

「本物との出会い」は、子どもたちに大きな感動を与えてくれます。それは、こうした事業だけではありません。日常の授業でも、そうした「出会い」を考えたいですね。

さて、私はこの音楽会が終わり、びわ湖ホールの裏の湖岸に続く芝生に足を運びました。そして、ちょうど10年前のことを思い出していました。野洲小の校長の時のことです。当時の『校長通信』(野洲小の教職員向けの「校長だより」)に書いていましたので、ここで紹介します。

昨日(6月6日)、4年生の校外学習(県庁、びわこホール)について行きました。なにより132名全員が参加でき、事故もなく、うれしかったです。

なかでもググツきたのが、「お弁当」の時間。ビデオカメラを預かったので、午前中の県庁見学から写していました。そして、びわこホール前の湖岸緑地での「お弁当」。天気もうす曇りで風も吹き、びわ湖を眺めながら芝生の上で食べるのに抜群の状況でした。そこで、カメラを片手に班ごとに食べている子どもたちを撮って行きました。みんな楽しそうに食べていて、中には弁当を「これ、

「かわいいやろ！？」と、何人もの子が見せてくれました。そこには色とりどりのおかずやおにぎりが……。と、そんな中、Mさん(男子)の班へ。彼がビデオに写してもらうのを待ち構えたように一言。「校長先生、このチャーハン、朝からぼくが作ったんやで！」と、チャーハンだけがびっしりと入った黄緑色のタッパーを見せてくれました。写している私は、「すごいなー。」の返す一言がのどに詰まって、大きな声にはなりませんでした。私が前にこの子と「対面」したのは、連休合間の(地域での)問題行動のときでした。(お母さんが学校にあやまりに連れて来られたときです。)

毎日、子どもたちは「おはようございます！」と、元気よく登校して来ます。教室に座っていると、どの子も同じように「明るく」「元気な」様子が伺えます。でも、一人ひとりを見ると、さまざまな「生活をかかえて」学校に来ているのが見えてきます。お母さんが夜の仕事をしていたり、あるいは、ネグレクト傾向であったりして、残念ながら弁当をつくってもらえなかった子。あるいは、親の状況をはっきり認識していて、「弁当をつくって。」とは言えなかった子。校外学習という、日常とは少し違ったことの中で、「子どもの生活が見える瞬間」があります。私は、担任の先生から彼の生活状況を聞いていました。ですから、彼のそのたった一言を聞いたのがうれしくて、いとおしくて、胸いっぱいになりました。……。

私たち教職員は、そんな課題の重い子どもたちに寄りそい、毎日の学級づくりをしていくことが大切なんだと、改めて気づかされた「一瞬」でした。そして、同時に、私たち教職員の「アンテナを高く」持つことの大切さも……。それこそ「子どもに教えてもらった」一日でした。

「しんどい子をまん中にすえた学級集団づくり」と言いますが、こうした子を中心にクラスづくりをすることが、今も、全国の人権教育の中でさかんに行われています。しんどい子に寄りそい、その「思い」を仲間づくりのエネルギーに変えていく営みです。かつての野洲市でも、そんな学級集団づくりがさかんに追及されていました。最近の世代交代の中で、もう一度見直したい取組みです。